

如きものがある。

指幣の餓旧幕より許可は無之に得共昔年より藩内限
り為辦理錢手形相用、寛政十年三月當時相用候指幣
に製造仕候。尤巡見使回来之節指幣之有無等に付、
錢手形藩内限相用候段相違置候

明治六年三月十六日より四月七日までの二十二日間、大分県に於いては「管下旧藩札の假し兼て相違置の柄格比較表の柄位を以て別紙箇所へ佐伯藩札は佐伯村へ新紋幣及五銭未滿の分へ新貨相当の柄位押印の札を以て交換致候条云々」と權令森下景瑞から通達が発せられ、新貨への切替が行われたのである。

昭和元祿といわれる今日、物価の上昇は止まるところがない。銭はいくらあつても追着けない。従つて金の値打も変なものになつてしまつた。明治、大正年代のはば安定した金銭界を思うとぞ、実に驚天動地、啞然たるものばかりである。銭は昔から誰にも生きて行く上に關係が深いものであつたことは勿論だが、時代と共に銭多の變遷を經て、いよいよ金が仇の世の中となつてしまつたのである。

（筆者住所 佐伯市太字三）

(筆者住所 佐伯市太平区)

資

中島子玉の詩書

日田・廣瀬恒太氏よりのももの紹介

羽柴弘

過ぐる日、日田の豪傑恒太氏から中島子玉の書のコピーを頂
いた。休伯が誇る先を、その詩才を天下にうたわれた子玉の、人聞

味の流露している次の七言絶句を読んで見て下さい。

注
五更遁酒出君家
醉眼朦朧歸路賒
呼茗山妻眠不起
簾前和雪嚼梅花
飲水森堂翌日賦贈 如玉

右の太素堂かどにておなか、夜を徹してよく誂り、よく飲んで、夜に帰り、謝意をもつての衣を、賦して贈つたのである。如玉は子玉の別号。

中皇子王となりてその御洗窓は汝のように評している。（洗窓全集所載「儒林評」の中全文、冒頭の「予」とあるは汝を自身である）

予子弟ヲ教育スルコト三十余年、束脩ヲ取ル者三千人ニ及ベリ。其ノ中ニ於テ第一ノ才子ト称スベキハ中島子^三十ナリ。

子王名圭、後ニ犬養ト改ム。米華ト号ス。豊後佐伯ノ人ナリ。予ガ門ニアルコト六年。後三都ニ遊ビ、諸名家ト交ル。逢フ人其詩才ヲ称セザルハナシ。惜哉カチ三十四歳ニシテ歿セリ。天若シ之ニ假スニ年ヲ以テセバ其ノ至ル延計ル可カラズ。其ノ文采ハ甚ダ賴子成ニ似リ。其ノ人ハ甚ダ好シ。恨ムラクバ近年酒ニ耽ルコト大過シテ攝生ノ道ヲ失ヘリ。

(注) ①更は一夜を五分し、略し二時間づつ。初更ハ午後八時、五更ハ朝ハ四時。

②茗・メイ おそいふな茶、茶經に「早取曰茶、晚取曰茗」とあり。

④ 山妻「自分ヲ妻ト謙遜して呼ぶ。

⑤ 三都 江戸、京都、大阪

⑤ 獲子成・ライシイ、拔山陽

子玉の諱の内密、師の洪窓の子王評と傳せ卷之五佐伯に於ける子玉と兼て
らねる。大養堂自注に、誰方で誤るを泰野は辨明するよし。

Figure 1. The effect of the number of trials on the mean number of correct responses for the 100 trials condition. The number of correct responses was significantly higher than the number of incorrect responses for all conditions.